

平成28年度 経営発達支援計画に係る事業評価報告書

あわら市商工会

本会は、経済産業省より平成28年4月に小規模事業者の事業計画作成・実施支援や技術の向上、新たな事業の分野の開拓などを行い、事業の持続的発展を支援するための経営発達支援計画が認定され、この計画に基づき小規模事業支援を行った。

その事業実績についての評価は次のとおりです。

【評価の目的】 経営発達支援計画に基づいて実施した事業の客観的な評価を行い、次年度以降の各事業の見直し等につなげることを目的とする。

総合評価における基準は、各項目の目標に対する達成度合いで評価している。

A：目標を達成することができた。（100%以上）

B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）

C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）

D：目標をほとんど達成することができなかった。（30%未満）

1. 地域の経済動向調査に関すること

あわら市内の製造業・建設業・小売業・サービス業・旅館業の6業種の財務状況や雇用状況、資金調達環境や設備投資の動向など、総合的な状況から考えられる自社の業況等の項目において調査・分析を行い、事業計画策定セミナーに参加し事業計画を策定していく事業者に外部資料として提供し業況に応じた計画策定の一翼とした。

①実施状況

調査業種	目標値	実績
製造業	5件	5件
建設業	5件	5件
小売業	5件	5件
サービス業	5件	5件
旅館業	3件	3件
回数	2回	2回

②評価内容

調査としては、目標の業種・回数とも目標を達成しているが、連続した調査となってしまった。また、調査により当市における経済動向の現状について把握することができ、分析結果については事業計画を策定する事業者へ外部資料として提供することができた。

総合評価 B

③見直し

調査時期が遅れたため、連続しての調査になってしまったので、計画通り半期ごとに調査する必要がある。

また、分析結果については、事業計画策定に向けた個別企業への提供だけでなく、商工会会報やホームページに掲載し、広く地域に情報提供していく。

2. 経営状況の分析に関すること

巡回や各種セミナーの開催を通じて、対象事業者をピックアップし、経営状況や財務状況を分析して、課題の抽出を行うことにより、自社の意識づけを促すと共に、課題解決に向けた提案指導を行った。また、事業計画策定者には課題解決策等を考慮した計画策定に活用した。

①実施状況

支援内容	目標値	実績
巡回訪問件数 (経営指導員4名)	2,700	2,394
セミナー開催回数	3	6
経営分析の件数	30	102

②評価内容

巡回については、異動等により不慣れと準備不足により目標の89%となったが、経営分析においては巡回・窓口指導やセミナーにおいて事業者の掘り起しを行い、記帳指導・専門家派遣等を活用しながら経営分析を行い、当初の目標件数より大幅に増やすことができた。

総合評価 A

③見直し

巡回訪問件数については、効率よく計画的に巡回を行い、各種情報提供を行いながらヒアリング等で事業所の状況や経営課題を把握し経営分析が必要な事業所のピックアップやその後の専門家派遣へつながるよう工夫する。

経営分析の内容が定量的分析になっているため、今後は、定性的分析も織り交ぜながら課題抽出と効果的な解決策に繋げていく。

3. 事業計画策定支援に関すること

経営計画策定セミナー・個別相談会の開催や巡回指導により事業計画策定を目指す事業者の掘り起しを行い、経営分析、経済動向調査等の結果を踏まえ、経営力の向上を図るため伴走型で事業計画の策定支援を行った。

①実施状況

支援内容	目標値	実績
策定セミナー開催回数	1	1
個別相談会開催回数	12	3
補助金用事業計画策定事業者数	40	56
事業計画策定事業者数	2	4
事業承継計画策定事業者数	2	0
創業計画策定事業者数	4	4
第二創業計画策定事業者数	1	0

②評価内容

持続化補助金やものづくり補助金の申請支援に関する事業計画策定を中心

にセミナーの開催や専門家派遣を行い計画策定を支援し、事業承継・第二創業以外は目標数値を上回ることができた。但し、事業承継・第二創業は、受動的要因もあるため、全体の目標件数にて評価した。

総合評価 B

③見直し

事業承継・第二創業については、受動的要因を有あり案件がなく、事業計画を策定できなかったため、今後は計画的な個別相談・巡回等の実施と各種セミナーにより掘り起しを行って行く。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

事業計画策定後に巡回指導等を捉え、進捗状況を確認し専門家や職員において伴走型の指導・助言を行い、持続的発展を図るため事業計画がスムーズに遂行できるようフォローアップを行った。

①実施状況

支援内容	目標値	実績
補助金用事業計画策定事業者 フォローアップ件数	40	56
事業計画策定事業者 フォローアップ件数	2	4
事業承継計画策定事業者 フォローアップ件数	2	0
創業・第二創業計画策定事業者 フォローアップ件数	5	4

②評価内容

事業を実施していく際や事業終了後の報告書作成などの伴走型の支援を中心に各種情報の提供など巡回訪問を行うことにより、目標を上回るフォローアップを実施し、事業効果を高めた。

総合評価 B

③見直し

事業者毎に担当者を決め策定企業の進捗を確認しながらフォローアップを行い、問題点などについては専門家を派遣し、スムーズな事業遂行ができるようにする。

5. 需要動向調査に関すること

イベントフェアや展示会におけるバイヤー・消費者のニーズ及び温泉街での観光・宿泊状況、売れ筋商品の需要動向の調査を行い、分類整理・分析し新たな販路開拓や新分野への参入を行う際の参考資料や新たな需要開拓に向けた計画策定の基礎資料とした。

①実施状況

支援内容	目標値	実績
展示会・商談会の調査回数	2	2
展示会・商談会での1回当たりの調査件数	50	48 100
観光・宿泊業などの調査回数	4	1
観光・宿泊業などの1回当たりの調査件数	20	17
イベントフェアでの調査回数	1	1
イベントフェアでの調査件数	100	100
業界情報紙やネットなどの調査回数	4	1
業界情報紙やネットなどの1回当たりの調査件数	5	8
調査結果提供事業者数	30	117
会報での情報提供回数	2	0

②評価内容

当初予定していた調査は全て実施しているが、初年度で実施方法の取り決め
に時間が掛かり、調査時期が遅れたため予定回数の調査ができなかった部分がある。

総合評価 C

③見直し

今年度は早めに準備を行い、当初より計画的に調査し、分析結果について企業
に提供し事業計画作成に役立てる。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

事業者の販路開拓や新分野に繋がる機会を創出するため、首都圏等で開催された
展示会に伴走型にて参加し、取引先を模索するなど需要開拓に寄与し、事業者
の持続的な発展を支援した。

①実施状況

項目	目標値	実績
県内外への宣伝	1	1
展示会・商談会への出展回数	2	2
展示会・商談会への出展支援及び 伴走型出展事業者数	4	3
商品ブラッシュアップ支援事業者数	4	4
I T活用販売促進支援事業者数	5	12

②評価内容

展示会への伴走型出展については、急遽社用により1事業者参加できなかったが、他は当初の目標を超えることができた。また、IT活用については、セミナーを開催し、販路への活用を支援した。

総合評価 A

③見直し

首都圏等での商談が不慣れなため、今後は、バイヤー等との商談の進め方なども含めたフォローをしていく。

インターネットを利用した需要開拓を積極的に行うため、全国商工会連合会のホームページ作成支援システムの「SHIFT」を活用したホームページ作成を支援する。

7. 地域経済の活性化に資する取組

市内における購買が大型ドラッグストアやコンビニ、また、市外大型店への流出で小規模店では消費低迷が続いているため、イベントを通じた販わいを創出し需要開拓を図った。

①実施状況

項目	目標値	実績
商工フェスタ開催回数	1	1
商工フェスタ出展者数	25	26
商工フェスタ来場者数	3,600	7,200
ミニイベント開催回数	2	5
ミニイベント出展者数計	10	40
ミニイベント来場者数計	400	690

②評価内容

本会が主催として開催したイベントにおいては、当初目標を回数・出展者数・来場者数ともに超える結果となった。

○商工フェスタ

○ミニイベント ・ a キューブマーケット 2回

・ 日本酒フェスト

・ クリスマスコンサート/ワークショップ

・ バレンタインコンサート/ワークショップ

総合評価 A

③見直し

a キューブマーケットを夏のイベントとして真夏日に開催したため集客が少なかったため、今後日程について検討していく。

8. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

(1) 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

①実施状況

- ・隣接する商工会と事案に応じたタイムリーな連携を取り、支援ノウハウや支援の現状について情報交換を図った。
- ・県下商工会の代表経営指導員にて構成する「経営支援会議」終了後に他商工会の支援の現状や支援ノウハウ、課題や問題解決に向けての対策について情報交換を実施した。
- ・行政の担当課と経営改善、創業支援、まちづくり等について、施策や支援の現状について情報交換を行った。

②評価内容

概ね計画していた連携には取り組むことができたが、相手の都合もあり連携時期について計画的でない。

総合評価 B

③見直し

行政との連携における意見交換については、随時でなく時期を設定し計画的に開催する。

(2) 経営指導員等の資質向上等に関すること

①実施状況

- ・福井県商工会連合会が主催する基本能力研修や中小企業基盤整備機構の研修などに積極的に参加した。
- ・専門家には必ず同行し、専門家の指導ノウハウや知識を習得し、高度な相談への対応力を高めた。
- ・全職員でのミーティングを開催し、専門家との同行や研修により職員が知り得た支援ノウハウ等の知識を報告し意見交換を行うことで全職員が支援スキルの共有化を図り経営計画策定等の支援能力を向上させた。

②評価内容

概ね当初計画通りの取り組みを実施することができ、職員の資質向上を図ることができたが、知り得た知識の報告・情報交換の時期についてタイムリーでない。

総合評価 B

③見直し

職員間での報告・情報共有を図るための意見交換について、随時でなく計画的に開催する。また、経営支援に必要な知識を習得できる研修会や説明会などへ職員を積極的に派遣する。

【総 括】

平成28年度の経営発達支援計画の実施については、計画初年度ということもあり、進め方の知識不足や職員間の役割が明確でなかったため、達成に至らなかった項目が見受けられた。しかし、実施回数が目標に達しなかった項目があるが、計画内容においては全ての項目を一通り実施することができた。

また、経営分析から事業計画策定とその後のフォローまで、専門家等と連携しながら計画以上の成果を残すことができた。

平成29年度については、「伴走型小規模事業者推進事業」補助金などを活用し、目標達成しながら小規模事業者にとって持続的発展につながるように事業を進めていく。